

埼玉県の戸田市立戸田第二小学校 高木 寛子 先生から、MEXCBTの利活用についてお話を伺いました。

戸田第二小学校では、昨年度からMEXCBTで問題作成を行い、5、6年生の算数の授業で活用いただいています。独自作成問題を使った授業の内容、MEXCBTを使って初めての感想等についてお話いただきました。

※戸田市立戸田第二小学校の作成問題は、問題検索画面で「問題の種類から選ぶ」から「独自作成問題」「一問一答形式」を選択の上、検索・配信することで全国の学校で活用可能です。

■■■ 学校HPのURL <https://www.toda-c.ed.jp/site/toda2-e/> ■■■

◆◆◆ 学校FacebookのURL <https://www.facebook.com/to2shou/> ◆◆◆

1. なぜ、MEXCBTを使って問題を作成しようとしたのか経緯を教えてください。

令和3・4年度「教育課程実践検証協力校E-Assessmentに関するもの」の協力校となり、MEXCBTの問題作成に取り組みました。

2. 独自作成問題を使ってどのような授業を行ったか教えてください。

① 第6学年「円の面積の求め方を考えよう」

本時は、円を含む複合図形の面積について、既習の求積可能な図形の面積をもとにして分割して考え、図や式を用いて求め方を説明できるようにすることがねらいです。MEXCBTの独自作成問題を導入と終末で活用し、導入では既習図形の面積の求め方を確認し、終末では適用問題を解きながら、工夫して面積を求めるときの思考の流れを再現することで、学習を振り返り理解を深められるようにしました。

② 第5学年「分数のたし算、ひき算を広げよう」

本時は、異分母分数の加減計算について、分母をそろえることの意味を考え、説明することができるようにすることがねらいです。終末でMEXCBTの独自作成問題を活用し、適用問題を解くことで、単位分数に着目し、通分して計算することの意味やよさに気付くことができるようにしました。



3. 問題を作成する際に、工夫した点、苦労した点、感想等があったら教えてください。

昨年度から、MEXCBTの問題作成に取り組んでいます。「とにかくやってみよう」の1年目からレベルアップをして、2年目である今年度は、児童の「思考力・表現力・判断力」を評価することができる問題の作成にチャレンジしました。解くことで児童自身が学びを振り返ったり、理解を深めたりすることができるような問題づくりを目指しました。

年に数回、国立教育政策研究所の学力調査官にご指導いただきながら、授業の中で取り組むためのCBT※1の問題と、その活用の方法について検討しました。授業の中で、どのようなCBT問題を活用するかを考えることで、より一層授業のねらいが明確になっていきました。

また、CBTだからこその出題方法として、図や動画の活用にもチャレンジしました。図や動画を作成することは簡単ではなかったのですが、児童の「思考力・表現力・判断力」を問い、「数学的な見方・考え方」に迫る、よい問題をつくることができました。

全国の小学生のみなさんに活用してもらえたらうれしいです。



問題作成を行う教職員の様子